

2024 年卒

外国人留学生の就職活動状況に関する調査

2023 年 8 月発行

コロナ禍が収束に向かい、水際対策の緩和による訪日外国人増加に対応するため、また経済活動の回復に伴う深刻な人手不足を補うため、外国人留学生の採用ニーズは高まっている。

ディスコではキャリアス就活 2024 に会員登録している外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生（日本人学生）や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

【主な調査内容】

1. 現在の日本語力 P 2
2. 就職したい企業の種類 P 3
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じる点 P 3
4. 日本企業に対するイメージ P 4
5. 就職したい企業の規模と志望業界 P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方 P 6
7. インターンシップ等（※）のプログラム参加状況 P 8
8. 就職活動開始時期 P 8
9. 7月時点の就職活動量と内定状況（※） P 9
10. 企業に評価してもらいたいこと P 10
11. 就職活動の情報源 P 10
12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報 P 11
13. 留学の満足度 P 12
14. 外国人留学生就活川柳 P 12

※「インターンシップ（就業体験を伴う複数日程のプログラム）」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査
※「内定」には、内々定を含む

《調査概要》

調査対象：2024年3月卒業予定の外国人留学生（現在、大学4年生・大学院修士課程2年生）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2023年6月30日～7月17日
サンプリング：キャリアス就活 2024 に会員登録している外国人留学生 2,320 人
有効回答数：362 人

回答者の属性 単位：人

文系	276	大学院	230	国公立	151
理系	86	学部	132	私立	211

●出身国・地域

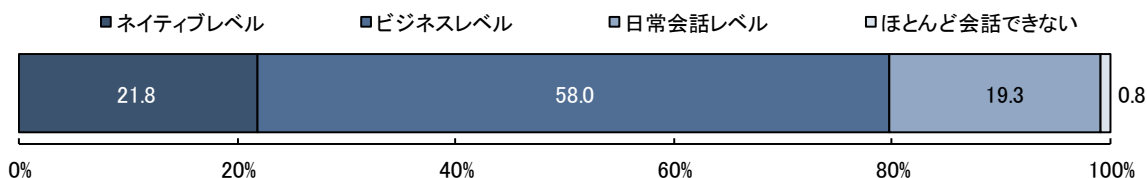
中国	台湾	韓国	東南アジア	その他アジア	ヨーロッパ	ロシア	南米	その他
260	12	44	30	7	1	3	1	4

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 2024 学生モニター調査」（2022年11月、2023年1月、2月、3月、7月調査）より
※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2023年4月発行）より

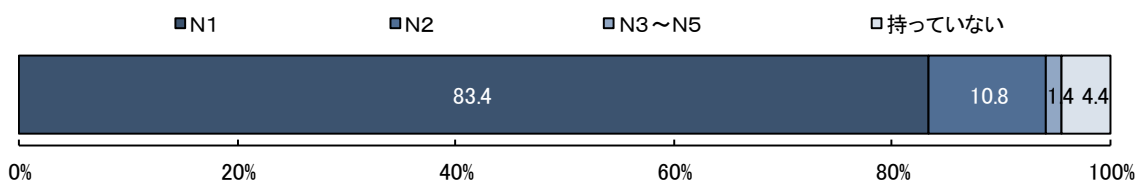
1. 現在の日本語力

まず、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(21.8%)、「ビジネスレベル」(58.0%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語力を有する者は約 8 割に上る (計 79.8%)。JLPT (日本語能力試験) のレベルについては、最高レベルである「N1」の保有者は 8 割を超える (83.4%)。ビジネスレベル以上を求める企業が大半だが、そのレベルに達している者は多い。

現在の日本語力

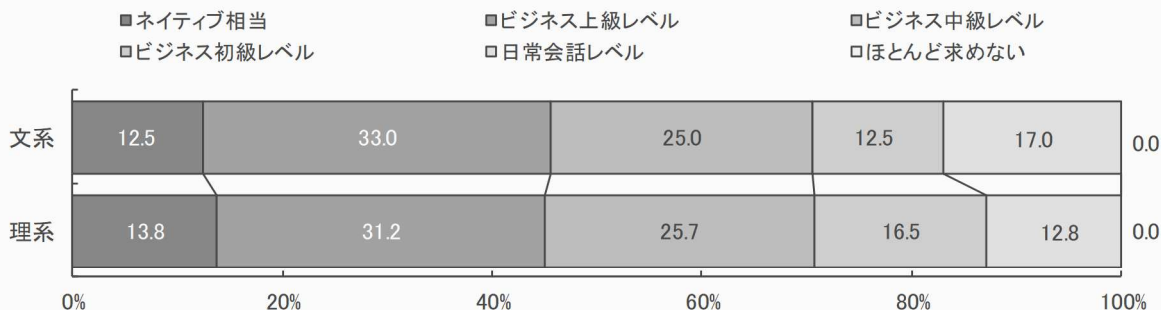


保有 JLPT(日本語能力試験)レベル



【参考】

企業が外国人留学生に求める日本語コミュニケーションレベル(内定時)



外国人留学生採用時のJLPTの入社基準



※ 「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」(2022 年 12 月)

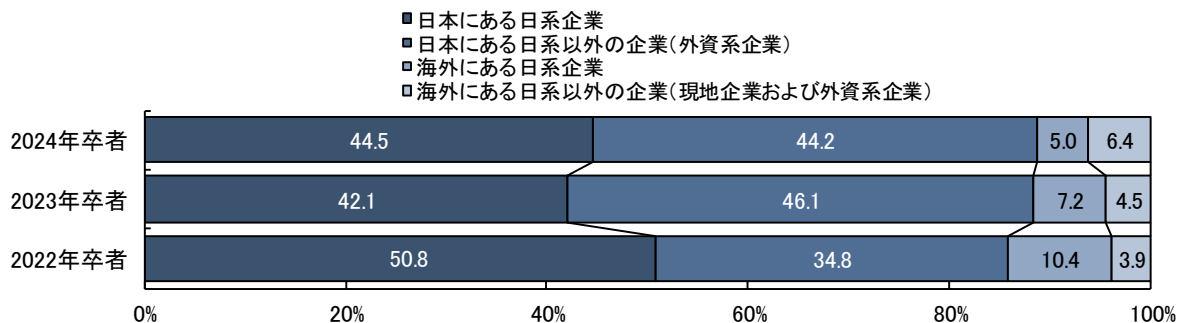
■ JLPT(日本語能力試験)とは？

- 日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。
- 【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。
- 【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- 【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- 【N4】基本的な日本語を理解することができる。
- 【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる。

2. 就職したい企業の種類

卒業後に就職したい企業を4つの選択肢で尋ねた。「日本にある日系企業」(44.5%)が最も多く、僅差で「日本にある日系以外の企業(外資系企業)」(44.2%)が続く。日本での就職を望む外国人留学生は合わせて約9割に上る(計88.7%)。

一番就職したい企業

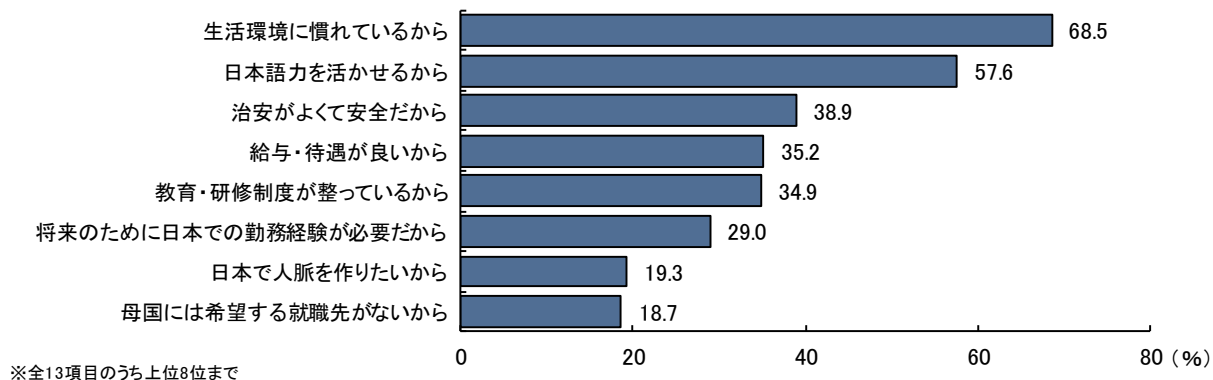


3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること

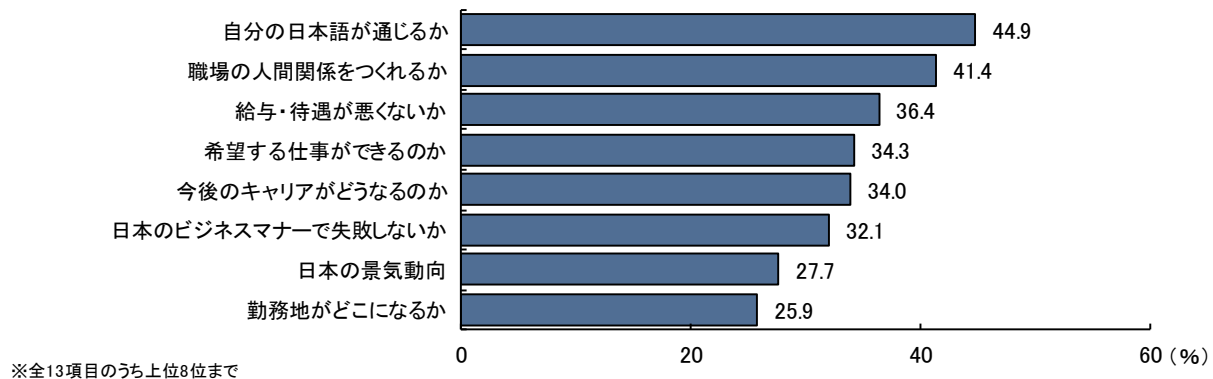
日本での就職を希望する理由として最も多いのは、「生活環境に慣れているから」で約7割(68.5%)。ここに「日本語力を活かせるから」(57.6%)が続く。一方、不安に感じることで最も多いのは「自分の日本語が通じるか」で、4割強が選択(44.9%)。留学で培った日本語力を活かしたい反面、ビジネスの場で通用するか自信を持ってない者も少なくないようだ。

なお、日本で働きたい年数を尋ねると、「できるだけ長く」という回答が過半数を占めており(51.4%)、短期間で帰国を考えている者は比較的少数だった。(グラフは次ページ)

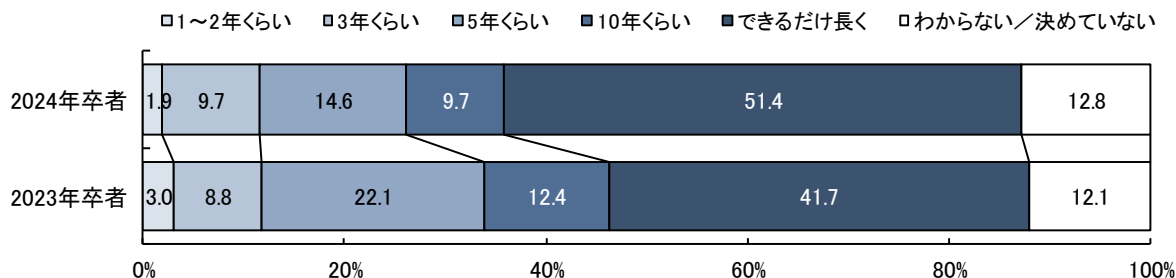
日本での就職を希望する理由



日本で就職する際に不安に感じること



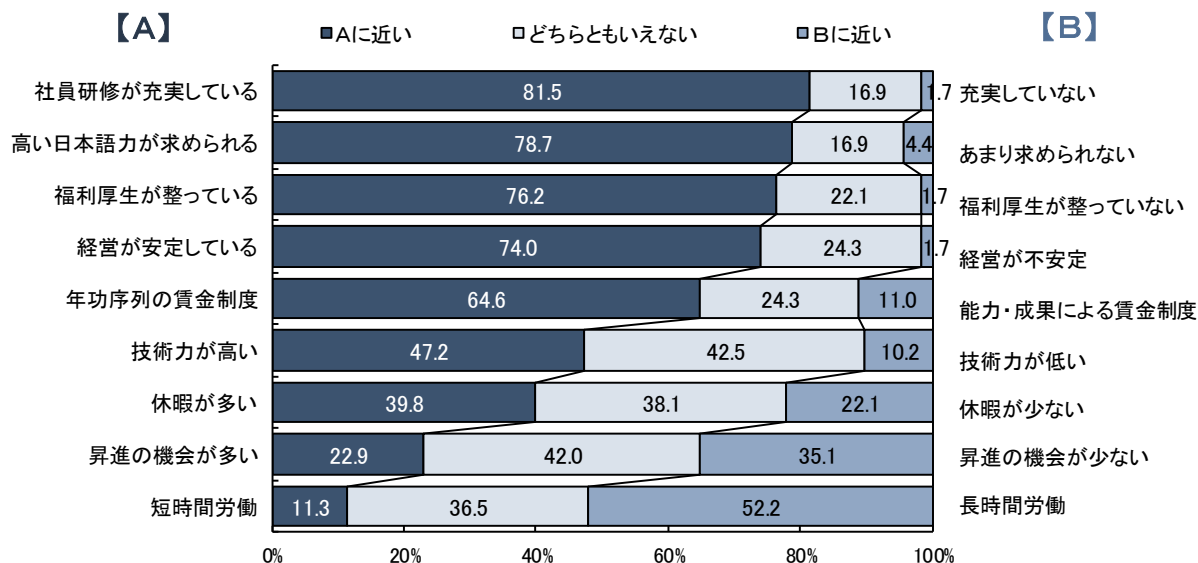
日本で働きたい年数



4. 日本企業に対するイメージ

日本企業に対して抱いているイメージを尋ねると、「社員研修が充実している」(81.5%)、「福利厚生が整っている」(76.2%) などが多くのポイントを集め、安心して働ける環境があると捉えていることがうかがえる。反面、「長時間労働」(52.2%)、「昇進の機会が少ない」(35.1%) などの負のイメージも見られる。また、「高い日本語力が求められる」を 8 割近くが選んでおり (78.7%)、日本企業への就職の障壁と感じる留学生もいるだろう。

日本企業に対して抱いているイメージ

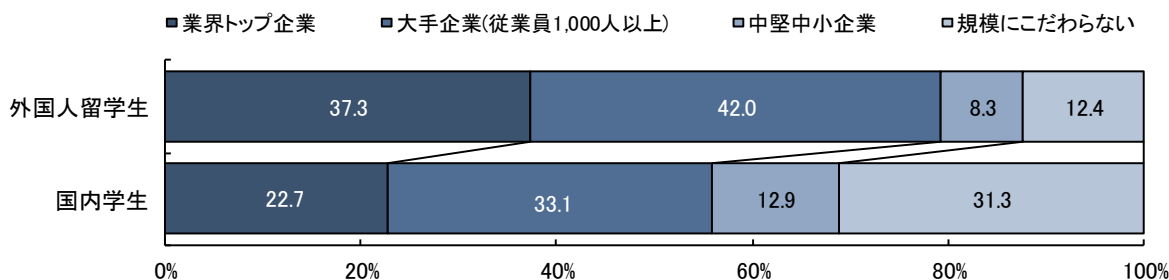


- 日本企業は世界トップレベルの技術力を持って、全世界に質の高い商品を提供している。 <中国出身>
- 良いイメージ: 新人教育が充実、専攻関係なく仕事できる。悪いイメージ: 20 代の給料が低い。 <中国出身>
- 育休制度がよく整備されている。 <韓国出身>
- 安定しているところがありつつ、時代遅れのところもある。 <トルコ出身>
- 良いイメージは、福利厚生が整っている会社が多く、新卒の研修制度も充実していること。悪いイメージは、まだ年功序列制の会社があり、若手の裁量権があまりなく、リーダーシップの育成もできていないと思う。 <中国出身>
- 管理層の男女差がまだひどいので女性の活躍を期待しています。また、ビジネスに対して対応が柔軟ではないイメージです。 <中国出身>
- 歴史が長い企業が多い。効率が低下、グローバルな視野が足りない。 <中国出身>
- 良いイメージを持っていますが、外国人として昇進の機会は少ない気がします。 <中国出身>

5. 就職したい企業の規模と志望業界

日本企業に限らず、就職したい企業の規模を尋ねた。「業界トップ企業」(37.3%)と「大手企業」(42.0%)を合計すると8割に迫る(計79.3%)。国内学生(日本人学生)の計55.8%と比べて20ポイント以上高く、外国人留学生の大手志向の強さが読み取れる。日本にある企業になじみが薄い分、まずは知名度の高い業界トップ企業に目を向ける留学生も少なくないと見られる。

就職したい企業の規模



※国内学生は2023年3月調査

続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、文理別に集計した。文系・理系ともに1位は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(文系:35.0%、理系:33.7%)。国内学生(日本人学生)にも人気のIT業界だが、外国人留学生ではさらに人気が高い。

文系の2位は「調査・コンサルタント」(32.5%)。外資系企業への就職を希望する留学生も多いことが影響しているのだろう(3ページ)。3位「商社(総合)」(28.1%)、5位「商社(専門)」(14.6%)、7位「ホテル・旅行」(12.8%)など、語学力や異文化対応力が求められる業界で、外国人留学生の人気が高いのも特徴的。

理系は、2位「電子・電機」(27.9%)、4位「自動車・輸送機器」「医薬品・医療関連・化粧品」(ともに19.8%)をはじめメーカーが上位に並ぶ。文系同様「調査・コンサルタント」(24.4%)の順位も高い(3位)。

就職活動当初の志望業界(上位10業界)

(%)

文 系				理 系			
外国人留学生		国内学生		外国人留学生		国内学生	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 35.0	1	銀行 20.2	1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 33.7	1	電子・電機 20.8
2	調査・コンサルタント 32.5	2	情報・インターネットサービス 18.8	2	電子・電機 27.9	2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 19.5
3	商社(総合) 28.1	3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.4	3	調査・コンサルタント 24.4	3	素材・化学 18.3
4	情報・インターネットサービス 22.3	4	マスコミ 14.6	4	自動車・輸送用機器 19.8	4	情報・インターネットサービス 17.6
5	商社(専門) 14.6	5	調査・コンサルタント 13.6		医薬品・医療関連・化粧品 19.8	5	水産・食品 17.4
6	電子・電機 13.1		官公庁・団体 13.6	6	素材・化学 18.6	6	自動車・輸送用機器 15.2
7	ホテル・旅行 12.8	7	商社(総合) 13.5		情報・インターネットサービス 15.1	7	建設・住宅・不動産 14.0
8	マスコミ 12.4	8	建設・住宅・不動産 12.5	7	水産・食品 15.1	8	医薬品・医療関連・化粧品 13.8
9	人材サービス・人材紹介・人材派遣 12.0	9	運輸・倉庫 12.2		機械・プラントエンジニアリング 15.1	9	機械・プラントエンジニアリング 13.1
10	自動車・輸送用機器 11.3	10	商社(専門) 11.9	10	建設・住宅・不動産 14.0	10	精密機器・医療用機器 12.7

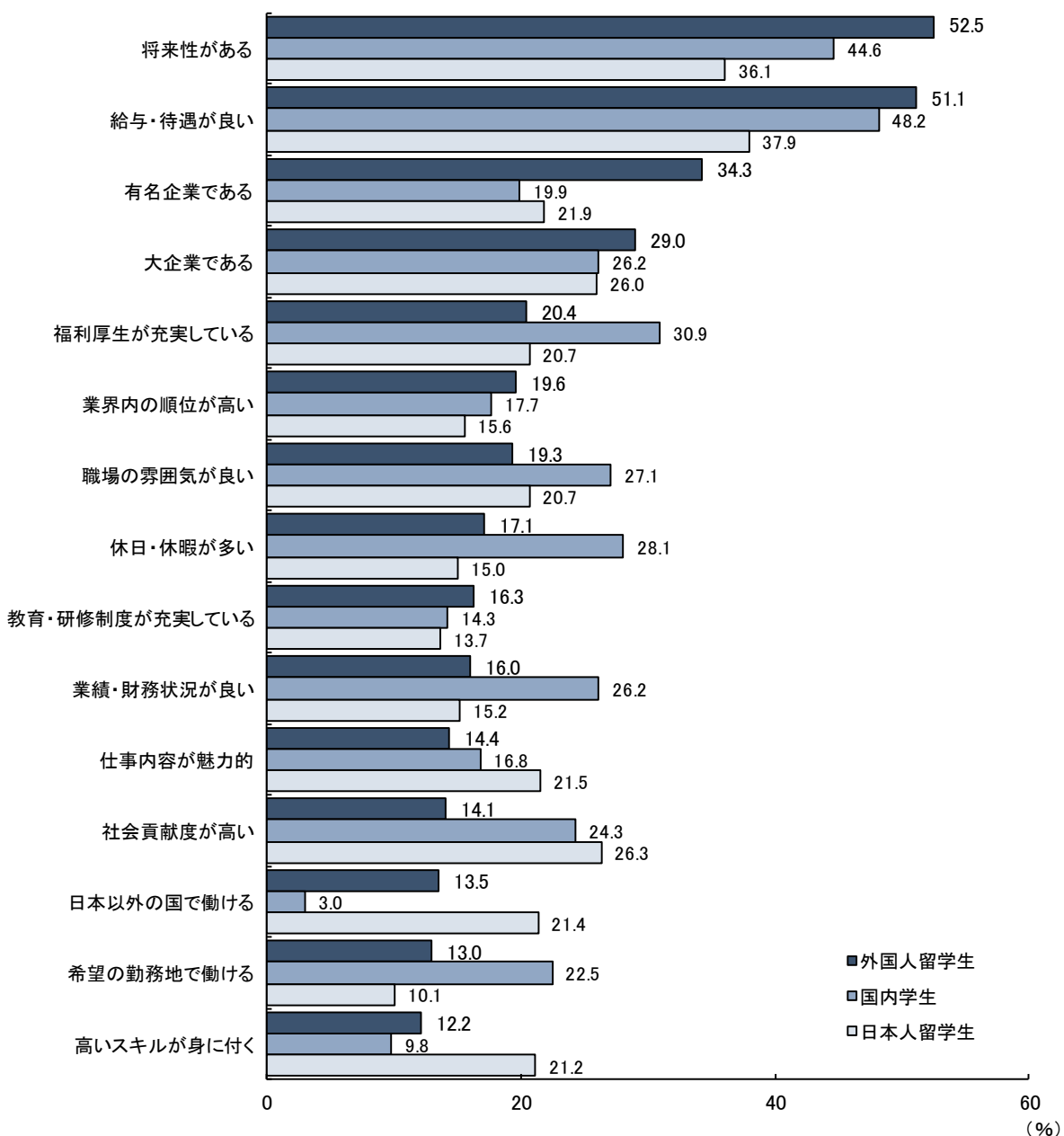
※40業界の中から5つまで選択
※国内学生は2023年3月調査

6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方

外国人留学生が就職先を選ぶ際に重視する点は、「将来性がある」が最も多く、過半数が選んだ(52.5%)。僅差で「給与・待遇が良い」(51.1%)が続き、上位2項目は国内学生と同じ。ただし、外国人留学生の方がそれぞれポイントが高い。3番目の「有名企業である」(34.3%)は、国内学生・日本人留学生より数字が高いのが目立つ。国内学生は全体的にポイントが分散しているのに対し、外国人留学生では上位項目に集中しているのが特徴的。

「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」などの働きやすさに関する項目は、国内学生では上位項目であるのに対し(30.9%、28.1%)、外国人留学生はそれぞれ大きく下回り(20.4%、17.1%)、国内学生ほど関心は高くないようだ。

就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位15位まで)



※全30項目のうち外国人留学生の上位15位まで

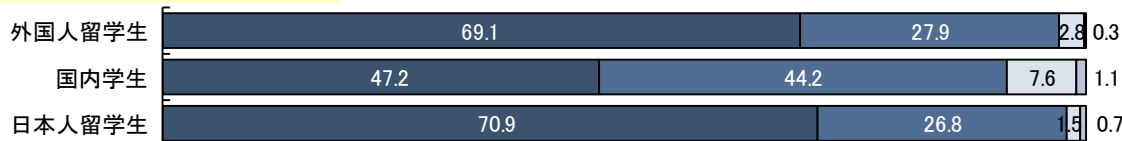
※国内学生は2023年1月調査

次に、就職先企業選びに下記の 3 つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。「(1) 仕事を通して成長できること」は、外国人留学生の約 7 割が「とても影響する」と回答 (69.1%)。企業選びで重要な要素であることがわかる。「(2) 多様性のある職場環境であること」は、「とても影響する」が約半数 (47.8%) に上る。海外で学ぶ日本人留学生も同様に関心が高いのに対し、国内学生は低め (30.2%)。「(3) 柔軟な働き方ができること」は、留学生・国内学生ともに、「影響する」の合計が 9 割前後と、共通して関心が高い。

就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

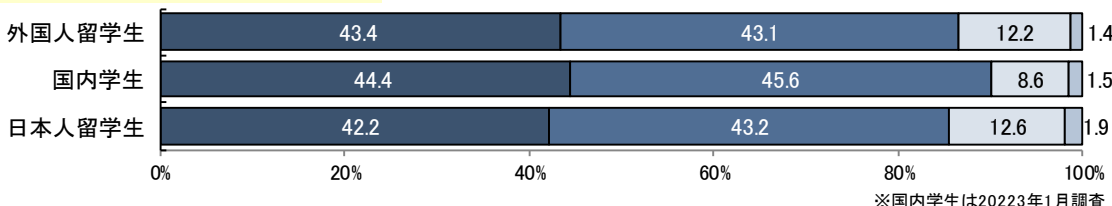
(1) 仕事を通して成長できること



(2) 多様性のある職場環境であること



(3) 柔軟な働き方ができること



続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

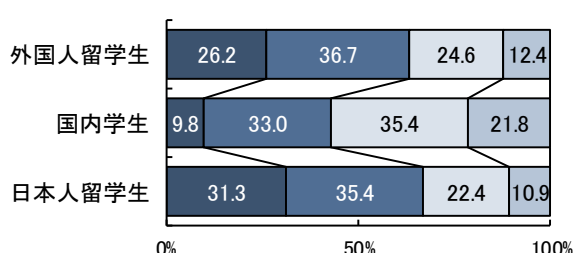
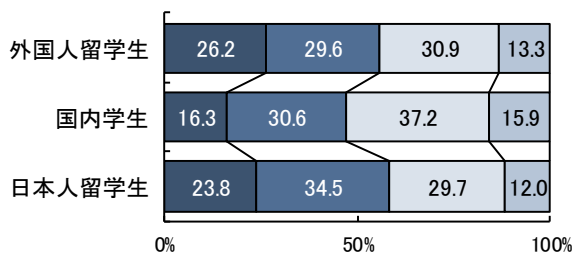
まず、「1 つの分野で専門性を高めたい」と考える外国人留学生は合わせて 55.8%。「幅広い業務を経験したい」(計 44.2%) を 10 ポイント以上上回り、国内学生と比べて高い。「仕事が多少忙しくても早く出世したい」は 6 割を超え (計 62.9%)、国内学生 (計 42.8%) を 20 ポイント上回る。留学生の出世意欲の強さが表れている。

働き方についての考え

A. 1つの分野で専門性を高めたい
B. 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)

A. 仕事が多少忙しくても早く出世したい
B. 出世するより自分のペースで仕事がしたい

■Aに近い ■ややAに近い □ややBに近い □Bに近い



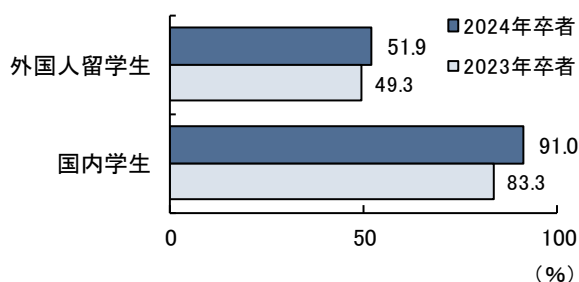
※国内学生は2023年2月調査

7. インターンシップ等のプログラム参加状況

日本国内でのインターンシップや仕事研究プログラム等への参加経験を尋ねた。「参加した」と回答した外国人留学生は51.9%。前年調査より2.6ポイント増加し、半数を超えた。ただ、国内学生の経験率（91.0%）とは大きな開きが見られる。参加した結果、就職したいと思う企業があったという外国人留学生は約7割（69.7%）。参加経験率は国内学生と比較すると低いものの、インターンシップ等への参加が、外国人留学生の就職先企業選びに与える影響は大きいことがわかる。

※1日以内のプログラムも含む

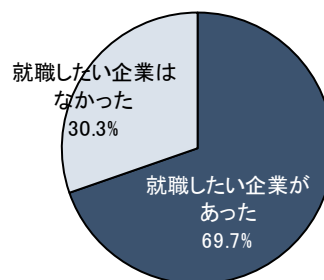
インターンシップ等参加経験率



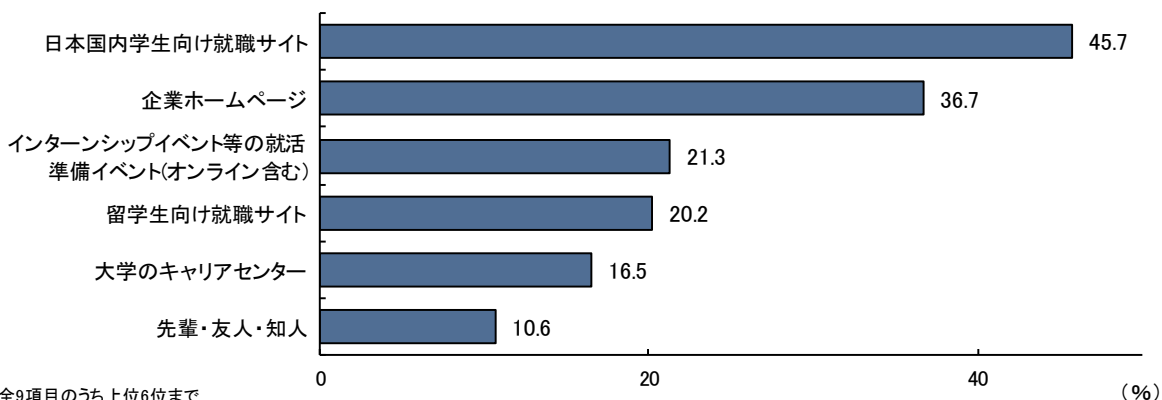
※オンライン形式含む

※国内学生は各年3月調査

インターンシップ等参加企業への就職意向



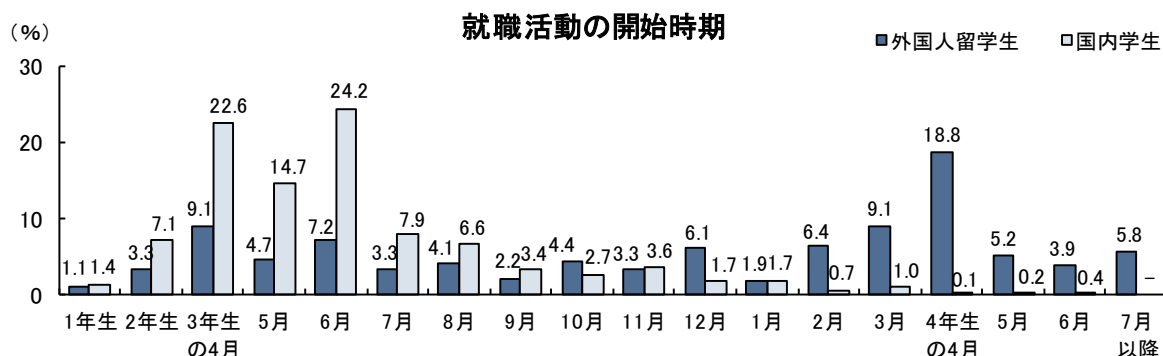
参加したプログラムを知ったきっかけ



※全9項目のうち上位6位まで

8. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は「4年生の4月」が最も多く（18.8%）、採用広報解禁（3月）以降の合計は42.8%。一方、国内学生は「3年生の6月」（24.2%）が最も多く、解禁前の合計が98.3%に上る。国内学生に比べ、外国人留学生の動き出しがかなり遅いことがわかる。ただし、「3年生の4月」（9.1%）など、早期から活動する層も一部見られる。



※国内学生は2022年11月調査

9. 7 月時点の就職活動量と内定状況

調査時点のエントリー社数は平均 26.3 社で、前年同期調査を 2.2 社上回る。インターンシップ等への参加が増えたことも影響しているだろう。それに伴い、企業セミナー、ES 提出社数、筆記・適性テスト、面接試験の社数、いずれも前年を上回る。文理別では、文系の方が理系より活動量が多いが、それほど大きな差は見られない。

すべての項目で国内学生の平均社数を上回っており、就職活動の開始時期は遅いものの、精力的に活動している様子が見て取れる。

就職活動の社数

	(社)				
	全体	(前年)	文系	理系	(国内学生)
エントリー社数	26.3	24.1	26.8	24.6	24.8
企業単独開催セミナーの参加社数	20.2	19.4	21.1	17.2	14.9
エントリーシート提出社数	21.5	18.6	22.1	19.7	13.9
筆記・適性テストの社数	16.1	14.3	16.2	15.7	9.8
面接試験の社数 (WEB面接含む)	10.7	9.6	10.7	10.7	8.6

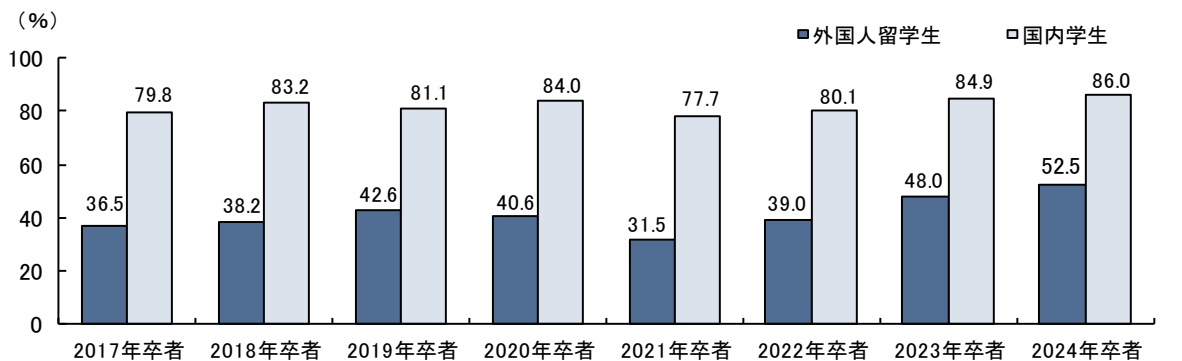
※国内学生は2023年7月調査

7 月時点の内定率は 52.5% で、前年同期調査 (48.0%) より 4.5 ポイント上昇し、5 割を超えた。現行の日程ルールが適用された 2017 年卒者以降で最も高い数字を示し、就職環境の改善がうかがえる。活動量の増加が、内定率の上昇につながった面もあるだろう。ただし、国内学生の 8 割超 (86.0%) とは、依然として大きな開きが見られる。

内定取得者も含め、就職活動を継続している外国人留学生は 6 割強 (計 62.1%)。同時期の国内学生 (計 25.7%) の 2 倍以上に上る。就職活動の動き出し時期の違いなどにより、進捗に顕著な差が生じている。

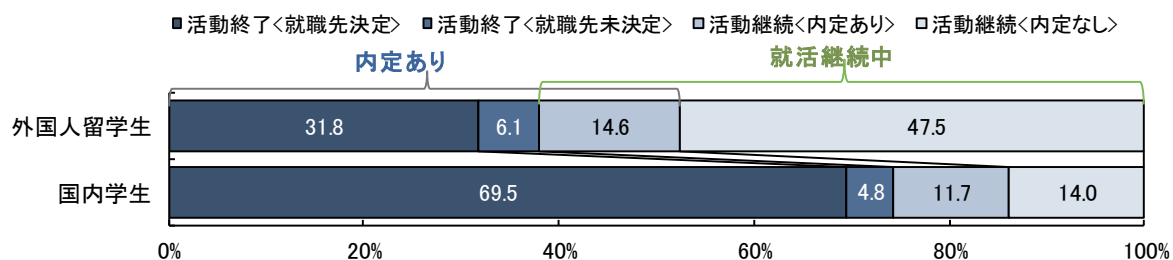
※「内定」には、内々定を含む

7 月時点の内定率 (国内学生との比較)



※国内学生は各年7月調査

7 月時点の就職活動状況



※国内学生は2023年7月調査

10. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。いずれも 1 位は「コミュニケーション能力」だが、外国人留学生は約 6 割（58.3%）と日本人学生よりポイントが高い。また、2 位以下は「語学力」「基礎学力」「異文化対応力」と続き、留学経験を通じて向上させた能力を企業に評価してもらいたいと考える留学生が多いことが読み取れる。

企業に評価してもらいたいこと(上位 10 位まで)

外国人留学生			国内学生			日本人留学生		
1	コミュニケーション能力	58.3	1	コミュニケーション能力	49.6	1	コミュニケーション能力	50.9
2	語学力	33.7	2	協調性	44.7	2	異文化対応力	39.7
3	基礎学力	30.7	3	信頼性	27.5	3	語学力	29.6
4	異文化対応力	29.0	4	熱意	26.8	4	協調性	28.4
5	熱意	27.3		明るさ	26.8	5	信頼性	22.6
6	協調性	27.1	6	社交性	23.9		基礎学力	22.6
7	専門知識	26.0	7	基礎学力	22.5	7	社交性	21.2
8	社交性	19.1		身だしなみ・マナー	22.5	8	リーダーシップ	20.7
9	信頼性	17.4	9	一般常識	18.1	9	熱意	20.2
	頭の回転の速さ	17.4	10	リーダーシップ	15.6	10	社会的関心	19.0

※全24項目のうち上位10位まで
※国内学生は2023年3月調査

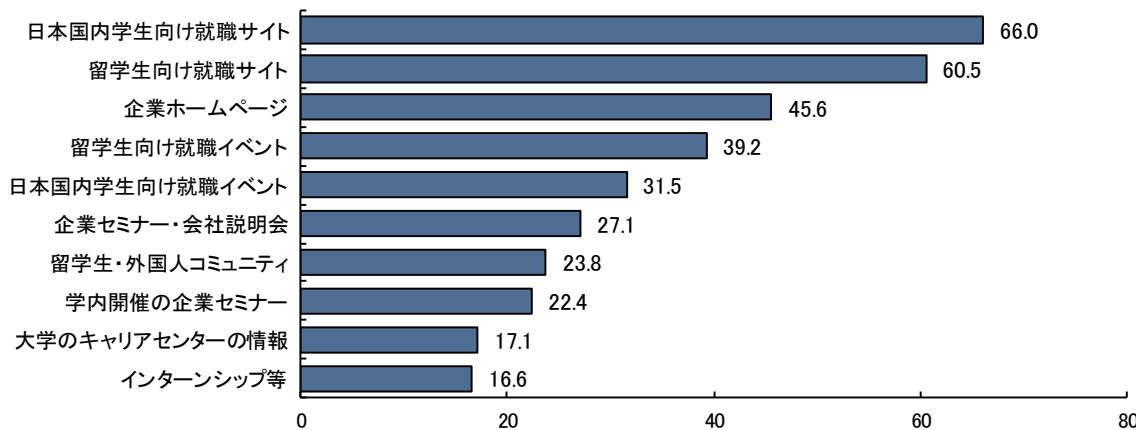
- 物事に対するチャレンジ精神、語学力、異文化に対する理解力。 <中国出身>
- 3つの言語をネイティブレベルで喋ること、研究業績。 <トルコ出身>
- 熱意と学力がある、成長意欲が高く、早いうちに戦力になれること。 <中国出身>

11. 就職活動の情報源

外国人留学生が活用している就職活動の情報源について尋ねた。最も多いのは「日本国内学生向け就職サイト」(66.0%)。これに「留学生向け就職サイト」(60.5%)が続き、多くの外国人留学生が就職サイトを広く活用していることがわかる。

「企業ホームページ」(45.6%)、「留学生向け就職イベント」(39.2%)、「日本国内学生向け就職イベント」(31.5%)が続き、様々な手段を用いて情報収集を行っている様子が見える。

就職活動の情報源



※全18項目のうち上位10位まで ※オンライン含む (%)

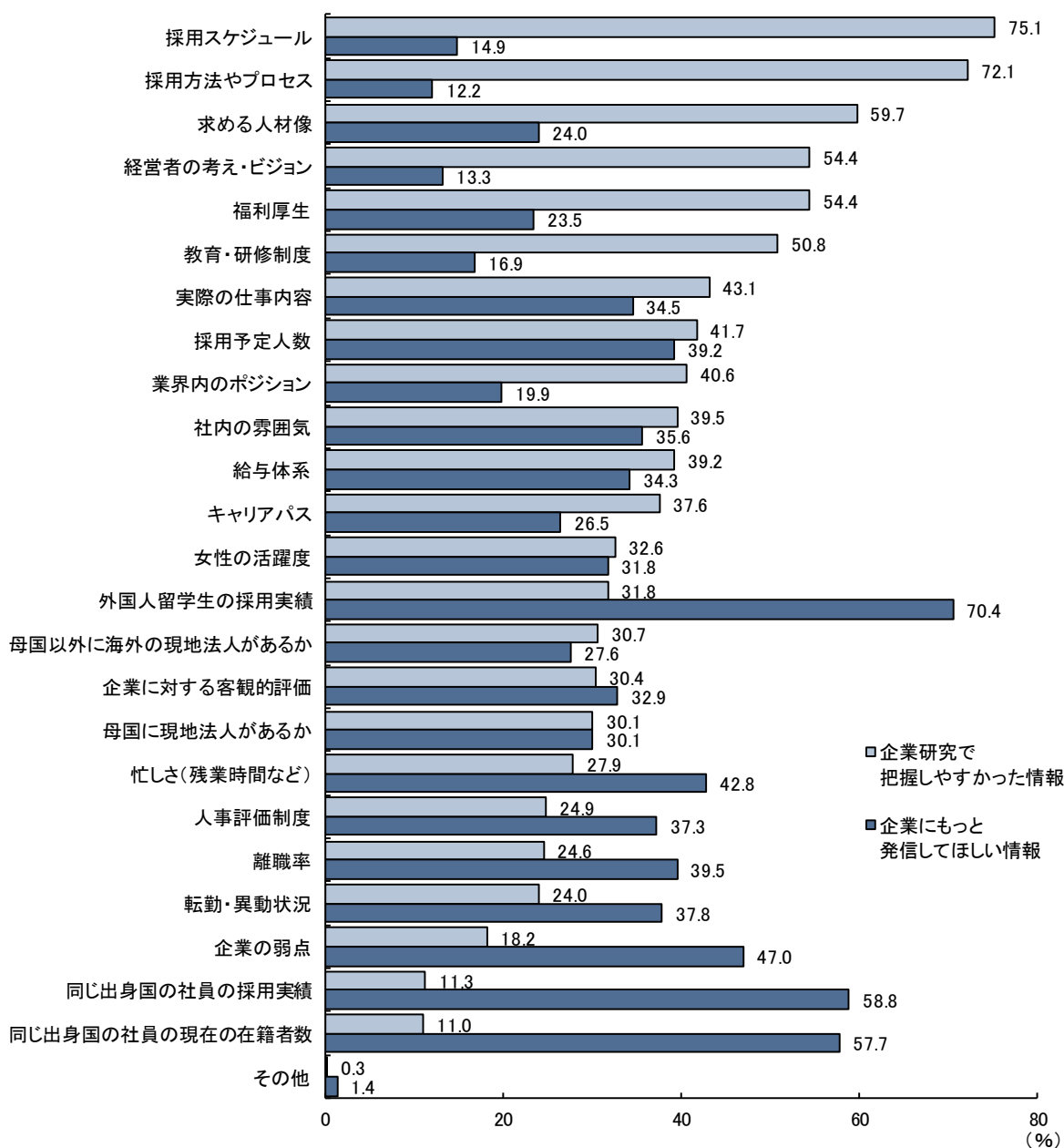
12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究で把握しやすかった情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」をそれぞれ尋ね、比較した。

まず、企業研究をする上で把握しやすかった情報は、「採用スケジュール」が最も多く、7割強（75.1%）。これに「採用方法やプロセス」（72.1%）、「求める人材像」（59.7%）と基礎的な採用情報が続く。

対して、企業にもっと発信してほしい情報は、「外国人留学生の採用実績」（70.4%）が突出している。次いで、「同じ出身国の社員の採用実績」（58.8%）、「同じ出身国の社員の現在の在籍者数」（57.7%）と外国人採用の実態に関する情報が続く。把握しやすかった情報と比較すると大きな差が見られ、外国人採用情報の積極的な開示を企業に求めていることがわかる。

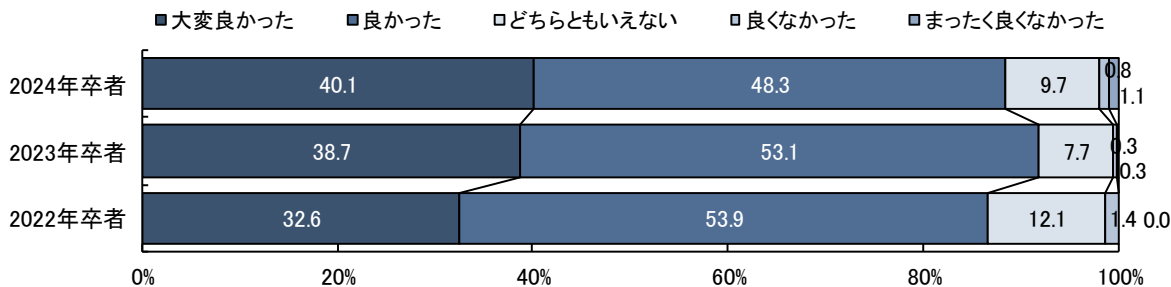
企業研究での情報



13. 留学の満足度

日本への留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」（40.1%）と「良かった」（48.3%）を合わせると約 9 割に上り（計 88.4%）、満足度は高い。語学力の向上だけでなく、異文化での生活を経験したことで視野が広がったことなどが多く挙げられた。

留学をした感想



■ 留學生活の感想

- 昔から日本が好きで、理想的な大学に入学できて、人間関係も母国より作りやすかったです。 <中国出身>
- 母国の大学では得られないような経験をするのができた。 <キルギス出身>
- 専門知識だけではなく、日本社会に対する理解や異文化理解、国際交流などを体験しました。 <台湾出身>
- 自分自身で考えて行動できるようになった。 <ネパール出身>
- 視野を広げられ、キャリアの選択肢も増えました。 <中国出身>
- 母国では学べない専門研究ができた点、母国よりも就職市場が大きくて多様な職業への就活ができた点でよかったと思っている。 <韓国出身>

■ 就職活動で困ったことや苦労したこと

- WEB テスト、面接、ES では、結構高い日本語力が求められています。 <中国出身>
- 論文が完成していない状態では、心置きなく就職活動をするのができない。 <台湾出身>
- 早く募集終了した企業が多いため、準備が間に合いません。 <ベトナム出身>

14. 外国人留学生就活川柳

日本での就職活動で感じたことを、川柳に詠んでもらった。全 98 作品が寄せられた中から、一例を紹介したい。日本特有の就活スタイルに戸惑いながらも奮闘する様子が見えてくる。

